

希少かつ伝統的な農業はいかにしてその地に残っているのか

自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ

衛藤 彬史



徳島県にし阿波地域では、傾斜地をそのまま利用した農業が営まれています(写真1)。傾斜の急な圃場の斜度は30度を越え、スキー場の上級者コースにも匹敵します。土壌が流失してしまうため、下がった土を掻き上げる必要があります、独自の農具や技術が発達しました。

静岡県の水わさびの栽培地域では、畳石式と呼ばれる階段状に築かれたかけ流しの田でわさびを生産しており、独特の景観と生態系を有しています(写真2)。

両事例は世界農業遺産*に認定されており、こうした独自性のある伝統的な農業が、なぜその地域で残り、どのように社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきたか、を解き明かしたいと考えています。

その際に、注目するのが生物進化のメカニズムです。研究成果はこれからですが、気候や栽培条件の点で共通する特徴を持ちながら、文化や社会制度の点で異なる中国の事例と比較する中で、重要かつ希少な農業システムを保全する上での示唆を得ることができればと考えています。

*世界農業遺産(GIAHS)とは、社会や環境に適応しながら時代を超えて継承され、関連文化を育んできた世界的に重要な独自性のある伝統的な農林水産業を営む地域、システムを国連食糧農業機関(FAO)が認定したものです。世界26カ国86地域、日本国内では15地域が認定されています。



写真1 徳島県にし阿波地域における傾斜地農業



写真2 静岡県伊豆市におけるわさび田